

イヌマキの樹幹注入剤の防除試験について

令和7年2月14日(金)

令和7年2月27日(木)、国頭村字辺野喜の県営林内のイヌマキ林において、樹幹注入剤による防除試験を行った。

イヌマキは耐白蟻性が高く木肌が美しいことから、本県において古くから利用されている建築材の一つであり、これまで県内各地で造林されてきた。

しかしながら、キオビエダシャクによる虫害がひどく、これらの造林地は枯損または衰退している。

そのような中、沖縄県森林資源研究センターが樹幹注入剤による防除試験を行っており、2ヶ月以上の防除効果が確認されたところである。

そこで沖縄県北部農林水産振興センターでは、当該試験を本イヌマキ林において継続して調査していくこととした。

今回は20本弱の個体を選出し、約1時間かけて薬剤の注入を行った。

これまでは薬剤を枝葉に散布していたため雨天には防除を行うことができず、特に梅雨時期の散布のタイミングに苦慮していた。今回の試験が上手くいけば、天候に左右されず適期に防除することが可能になることから今後に期待したい。



写真1：説明を受けている様子



写真2：樹幹注入を行っている様子